会　議　記　録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会　議　名	令和６年度第１回高松市放課後子ども総合プラン運営委員会
開催日時	令和６年１１月２０日（水）午前１０時００分～正午
開催場所	高松市役所　３階　３２会議室
議　　題	（１）副委員長の指名について （２）放課後児童クラブについて （３）放課後子ども教室について （４）その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	石井委員、石原委員、植原委員、木村委員、佐々木委員、髙木委員、竹内委員、田村委員、松井委員、松本委員、三木委員、森川委員　計１２人
傍　聴　者	１人　　（定員５人）
担当課及び連絡先	子育て支援課放課後支援係　８３９－２３５４

会議の経過及び結果
会議を開会し、下記の結果となった。 **【会議の経過】** **議題（１）副委員長の指名について** 高松市放課後子ども総合プラン運営委員会設置要綱第５条第１項の規定に基づき、委員長の指名により、森川委員が選ばれた。 **議題（２）放課後児童クラブについて** **議題（３）放課後子ども教室について** 資料１に沿って、上記議題（２）及び（３）について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。 【主な質疑・意見等】 議題（２）について （委員） 連携型のことについてお伺いしたい。校内交流型と連携型があり、旧一体型が校内交流型にあたると思う。それに対して、連携型っていうのが、どういうものか伺いたい。 （事務局） 放課後子ども教室を学校内で実施しているものが、校内交流型ということで６年度から名称が変わっている。それに対して、学校以外で実施しているものが連携型になる。 （委員長）

例えば、その連携型の実施校区が４校区あがっているが、どういった形で実施しているのか説明があればわかりやすいのではないか。

（事務局）
例えばコミュニティセンターで実施されているものなどが、学校内で実施していないということで、連携型の校区になる。

（委員）
旧一体型と校内交流型は、何ら変わりはないのか。

（事務局）
いずれも学校内で行っているものであって、変わりはない。名称が変わっただけで、実施内容としては同じものである。

（委員）
いくつか課題に向けて取り組みをというお話があったと思うが、子ども教室のスタッフや、運営に関しての取組等を行っているが、なかなか実施時間や人手を増やせないとのことだが、具体的にどういった対策をしているのか。また子ども教室以外の部分でも課題の解決に向けた意見をとのことだったが、具体的に現在何に取り組んでいて、どのようなことを進めているのか。

（事務局）
先ほどの資料の９ページの左下の実施状況の表の下に、令和６年度、子ども教室の実施が予定されていない校区が１１校区あるので、子ども教室をまず増やしていくという課題がある。この点については、この委員会にご意見をもらっているので、子ども教室の存在をまず知っていただくという目的で、子ども教室の運営の母体として考えられる地区の各コミュニティ協議会の全体会で、昨年度は市職員が出向いて、特に子ども教室を実施していない校区を対象として、実施している校区についてはこのような教室を行っている等、高松市から情報提供を行った。今年度は出向いてはいないが、引き続き、事業の概要について、周知を行っている。昨年度の周知の成果として、今年度から屋島東校区が、来年度から屋島西校区が新たに教室の取組を開始するということで進めている。連携型についても、推進する必要があるが、双方が交流を行い、ネットワークを作っていく必要があるので、なかなか人材等の問題でその広がりが難しいというのが現状である。まだ具体的な動きはできていないが、それぞれの教室に出向いて、他の校区の取組み等の周知をしながら、連携型、特に校内交流型という形で増やしていけるように働きかけたい。

（委員）
子どもの安全確保という意味では、校内の方が子どもの移動がないので、安全であるし、その方面で進めていくというのは賛成である。実施に当たっては、人材に対する人件費や材料費などの金銭面の援助が必要不可欠であると思う。立ち上げ時の１年目だけ支援するが、それ以降は自己負担になるのであれば、なかなか難しい。やはり継続的な支援が必要。私自身、仕事の関係で子どもに関わる活動をされている方から人件費や経費が上がっていく中で、無償で、ボランティアとしてやってくださいというのは、難しいという話をよくお聞きする。子ども教室を運営している団体に費用負担のお願いをして、これから事業の継続と拡充を求めるのにも限界があるのではないか。

（事務局）
子ども教室は、文科省の補助事業として、これまで実施している。ただ、地域の住民の方々の協力も受けているので、どうしてもボランティア等の地域の人材の参加が、重要となってくる。ただ、資料9 ページの右上にあるコーディネーターや、教育活動推進員等、メインとして活動している方の報酬費については、毎年、運営経費として委託料の支出を行っている。また、立ち上げの時には、備品等の初期経費がかかるので、国の補助に基づき、立ち上げ時に限り、対応している。次年度以降については、使途は限定されるものの、運営経費について委託料として支出している。新規校区にも同様に対応していきたい。

（委員長）
例えばそういった、厳しい状況の中でも、実施をしている事例や、グッドプラクティスみたいな校区は、吸い上げられたりしているのか。今まだ実施していない校区にやってくださいねっていう働きかけだけでなく、こんなやり方がありますよとか、こういうやり方だったら負担なくできますよとか、他の校区でのグッドプラクティスのようなものを具体的に提示できればいいと思う。

（事務局）
資料の 9 ページに実施回数の多いところを列挙しているが、人材など各校区の状況の違いが、実施回数の差になって現れていると思われるが、頻繁に、熱心に取り組んでくれているところがあるので、確かに各校区のレベルを底上げするという視点からも、全体の実施状況について把握し、状況提供することが必要だと思っている。毎年、実績報告を出していただく際に、うまくいった点や、今後このようにしていきたい等のご意見も伺っている。まだフィードバックはできていないが、それらの意見も合わせて、必要な情報があれば、各校区に返していければと思っている。

（委員長）
多分毎年同じような課題があって、調べますと言われて、結局調べられたものがでてこないというような印象をもっている。

（委員）
私は鶴尾校区子ども教室で、コーディネーターをしており、高松市内を中心に香川県内の学校を回らしていただくことがあるが、小学生の生徒数は、今が大体ピークで、ここからどんどん減ってくるという話を教員の方からよく聞く。幼稚園も今年の年少ぐらいから急に減ってきたというところもある。あと5年先に、実際高松市内の幼稚園児はどれぐらいいるのか、把握されているのか。教えていただきたい。というのも、子ども教室の実施プログラムの内容等をどうしていくか現場の人たちが考えていかないといけないし、今後減ってくるのであれば、今後自身の校区以外と協力し合って、子ども教室を運営していく方法も、今から考えておかないと思っている。

（事務局）
放課後児童クラブについても、子どもの年齢ごとの数は、住民登録の人口により推移を見ている。各校区の人口が、実際に小学校に入るときに、急に増えるとかいうのが、一定の校区で起こっており、先ほどおっしゃったように、子どもの人数が減少傾向にあるというのはわかっているが、一部の学校では、入会児童は増えているという状況も見られている。推移をずっと見ていれば、事前に把握できるのではと言われるが、正確に把握できない校区もある。就学前の健診等で、現実的な数字が現れるということに留意していただく必要がある。

（委員）
　人口推移以上に増えていく校区は多肥、三渓あたりだと思うが、児童数が増えても、あと数年で、もうこれ以上住宅が建つわけでもないし、子どもが増えるわけでもない。放課後子ども教室の人数が減っている校区の講師の人たちを、人数が多いところに派遣するなど、スタッフの交流ができたらいいと思っている。今後校区の子どもの数が減ることが大体でもわかれば、校区によっては、ボランティアの確保に苦労していることから、早めに手を打っていけると思う。子どもの数が減少する中で、放課後子ども教室を増やしていくためにも、校区同士の交流を図ることも考えるべきだと思っている。

（委員長）
　高松市ではないが、私が関わっている就学前の施設をどう統合していくかを検討する会議等では、校区ごとの子どもの人数と、過去の利用割合をかけ合わせて、見込み人数を出しているのではないかと思われる。子どもの数は減っているが、利用の割合が増えているのであれば、その割合をかけ合わせて、おおよその見込みは出せると思う。その見込みがある程度わかっていれば、直前での人数の増減を踏まえた見込みも、あらかじめ考えておくことはできると思う。年１回のこの会議での議論の結果が次回の会議で報告されるのでは、十分な議論ができないので、他の会議とかで、出されている見込みなど、参考になるデータを本会議が終わった後に、委員へメールで送るとか、対応はできるのではないかと思う。

（事務局）
　実際に保育所や幼稚園の利用見込みを検討する会議に出席しているが、４月現在の待機児童は、3 人ということで、クラブに比べてかなり少なくなっていて、既に申込者数が減少しているという段階に入っている。ただ、保育所や子ども園は希望施設を、５つまで出してもらい、ここが駄目だったら次候補をあたることができるので、待機児童になりにくい状況にある。また、保育所等は、校区外の施設も入所できるので、特定の校区に児童が集中することが避けられるが、小学校に入学するときには、校区の指定があるので、校区によっては児童数が集中したり、マンションや宅地造成などにより一気に増えるというのが近年続いており、なかなか把握しにくい状況になっている。ただ、幅を持たせた数字は取れるので、きちんと把握して、想定をしていきたい。また、その数字もどのような形でお見せできるかわからないが、見せ方を考えていきたい。

（委員）
　亀阜校区であれば、近年マンションが立っていて、ファミリー層を呼び込んでいるので、亀阜校区は今後児童数が増えるのかなと素人目にも想像できる。今は、多肥や栗林の校区において、子どもがとても増えていて、確かに何年か前にそこにマンションが一気に建ったり、宅地が増えたりして、そこに人が流れたという変化をすでに過去に経験していることを踏まえれば、今後はこの校区が増えるという予想が立てられると思う。そうなると今度、今は学童や子ども教室の亀阜校区の利用者は少ないけれども、何年か後には増えるのではないかと思ったときに、今、他の委員さんがおっしゃったように、他の校区の教室同士の連携を図って、人をつないでおくことが大事になってくると思う。手厚く実施している校区では、運営に携わる人が集まっていて、頑張っている方のネットワークがあるが、年に数回しか実施していない校区は、熱意のある方が数名しかいないから数多く実施できないという現状があるのであれば、熱意のある人をネットワークにつないでおくことが大事になるのではと思っている。去年の市からの説明だと、クラブが民間に委託になれば、その民間の中で、人材のネットワークがあるので、例えば、病気で欠席があるとこちらから補充できるとか、人材不足を解消するために民間委託を実施さ

れたと思うが、そういった仕組みを、子ども教室にも応用できればと思う。現在のところ、そういった検討というのは、各校区の子ども教室を運営している人たちで考えることになっている。市としては校区において人材を確保することについてどう考えているのか。昨年の委員会でも同様の意見を述べているのに、具体的な取組が進められていないのがとても残念かなと思う。

（事務局）
クラブの民間委託の場合は、民間の中のネットワークとなるが、教室の方は、各地域のコミュニティ協議会を中心として委託している状況で、それぞれのコミュニティ協議会間の連携の問題となり、実際行われている方同士の連携の状況について、市の方で十分に把握できていない部分がある。各校区の実態をお聞きした上で、まず情報提供していければと考えている。

（委員）
私の校区では、実施してない校区に毎年入っているが、校区の健全育成の会長をしている私のところには、市の方から、こういう子ども教室を校区によって実施しているという話をしてくれたこともなく、こういう教室をしてくださいという広報活動が必要な方に届いているかは、疑問が残る。また、資料にある各校区の実施状況についても、実態に格差がみられ、正確な実施状況を反映しているのかちょっと疑問である。

（事務局）
昨年、各校区のコミュニティ協議会の代表者方が出席する会合において、我々が出席して、ここの地区はできていないことを、お示しさせていただいている。その結果、新たに３校区実施していただけるようになったので、説明させていただいた成果かなと思うが、さらにその地区のところまで行って、関係者等への説明は行っていないので、それも検討していきたいと思っている。

（委員長）
実際に何をしているのかが見えないことがよくないと思うが、実際、この実施予定のない校区で、放課後子ども教室を行うニーズ、必要性はあるのか。例えば未実施校区に香南校区があるが、そこは児童クラブが充実しているのではないかと思う。教室のニーズがないとか、それぞれ校区によって、事情が違ったりもするのではないかとも思う。それについての状況把握はどうなっているのか。

（事務局）
香南校区は、児童館があって、そこにクラブも併設されており、放課後様々な学年の児童が集まって遊んでいるという現状がある。浅野と国分寺の校区も同様であり、そういう遊べる場所があることで必要性等が変わってくることも考えられるので、そのような現状も確認できればと思っている。

（委員）
私は子どもと一緒に国分寺の児童館を利用したことがあるが、乳児の子どもを連れて利用することができる施設である。ししまる館では、小学生が一定数利用しているが、それは学童を必要としていない子どもたちになるので、それを子ども教室とクラブとを並列で考えることに少し疑問がある。児童館に遊びに来る子どもは、自分の足で来て帰っているのであって、子どもの居場所としては必要な場所ではあるが、子ども教室やクラブとの関係性は、切り離して考えるべきである。

（事務局）
子ども教室の目的には、様々な体験交流というのがあり、児童館に遊びに来ることでは補完できないところがある。安易に子どもの居場所になればいいということではないと思っている。ただ、先ほど言われたように、できてない校区はどういう事情があって、ニーズはどんな状況なのかを把握する必要があると思う。

（委員）
私の校区では、教室のスタッフから、放課後子ども教室と放課後児童クラブとの違いがわからないという意見が出たので、市職員にきてもらって、運営のスタッフを対象に説明をしていただいた。私の校区では、もともと児童クラブは児童クラブ、放課後子ども教室があって、その上で一体型（交流型）を推進する必要があるので、やり方をこういうふうにしていきましょうと皆さんにわかっていただいた上で実施できたので、今、うまくいっている。最初の頃は、放課後児童クラブと子ども教室で、少し関係性がぎくしゃくしたところもあったので、そこをしっかり説明いただいた方がいいのではないかと思う。放課後子ども教室としては、補助が受けられることや講師をどういう方にするかとかそういったノウハウをきちんと説明していけば、今後、ほかの校区も、やってみようかとなるのではないか。特に学校内を使う方が保護者にとっては安心な部分があるのでその説明をお願いしたいのと、子どもの居場所としては、文化センターでも、いろいろな教室を行っており、その校区の子だけに限らず、他の校区の子どもたちも受け入れているので、文化センターの実施状況も確認してほしい。

議題（４）その他について

資料２～４に沿って上記議題（４）について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

（委員）
資料２の ３ ページに、「高松市こども計画（仮称）」（素案）では、令和１１年度までに民間クラブを１９施設増やすとあるが、これはどこの地区にというのは考えているのか。

（事務局）^
民間クラブには、運営補助を行っているが、民間クラブも経営が成り立たないといけないので、中部地区の多肥校区や林校区のような待機児童が多いところに開設されている。ただ、民間クラブは送迎も行っており、多肥校区の児童が、林校区のクラブに通うことも可能である。そういうことも考慮し、待機児童の解消になるよう、参入促進を行っていく予定である。7 年度では多肥、林等で 5 つの、民間クラブを新に開設される意向があると伺っている。

（委員）
民間が増えれば増えるほど、民間も運営状況も、変わってくると思う。増えた後の出口戦略も考えながらしなければならないと思う。

（委員）
そもそも高松市には児童館が３町（国分寺町・香南町・香川町）にしか設置されてないが、現状でいいのか、今後、何か変えていく見通しがあるのか。それと、児童福祉施設というのも児童館という場合に、健康福祉局だけでなく、市民局の所管の文化センターが児童館の併設施設であっ

て、法的な位置付けとしては同じ児童館であることから、合わせて乗っかっていくという考え方もあると思う。局を跨いで、どういう形で進めていく考えなのか２点について伺いたい。

（事務局）
　児童館を今後どうしていくかについては、かなり前に整備されたものもあり、地域における役割も大きい。ただ、市の公共施設を今後どうしていくかという問題があり、施設が古くなっていて維持管理にも費用がかかるようになっており、将来的には、施設維持管理の面で検討していく必要はあるかと思っている。次に、児童館がないところについて、現状としては新たに整備していくのは非常に難しいと考えている。市としては市内で、高松市こども未来館を設置しており、このような類似施設を活用することで対応していくことになると思う。最後に児童館としての位置付けとして、所管部局が分かれているが、それぞれの運営協議会の役割等について、今後整理した上で、対応してまいりたい。

（委員長）
　資料　３　２ページのアンケートだが、このアンケートは、シダックスが実施したのか市で実施されたのか、どちらになるか。

（事務局）
　市の方から依頼を行っており、実施はシダックスにしてもらい、その集計も今現在シダックスにしてもらっている。

（委員長）
　アンケートの集計もシダックスが行い、その結果を市で受けて、そこから課題とかをどう改善していくのかを協議していくということか。

（事務局）
　いろんな意見があると思うので、自由意見も含めた結果のすべてをいただくようにしている。また、市のホームページで結果を公表する予定である。

（委員）
　児童館に関して意見をいただくための協議会の役割をこの委員会でという説明であったが、この委員会が対象とする施設は、小学生が使用する施設なので、この児童館が小学生を対象としているものの、利用状況を見ると、大半の利用者は、就学前の乳幼児であると思うので、私達がこの委員会で意見を申しあげるときに、施設をどのように盛り上げるのか、また、施設をいつまで維持するのかなど、どのような視点での意見が求められるのか、しっかりと方針を出していただかないと、委員として関われるか、決めかねると思う。

（事務局）
　児童館の利用者を見ると就学前の割合が多く、その利用状況が適切なのかという議論もあると思うが、やはり今実施している行事や、小学生向けの行事や連携についてのご意見をいただけたらと考えられるが、もう少し整理をしたいと思う。

（委員）

児童館が、高齢者も含めて地域の方々の居場所として機能しているのであればコミュニティセンターのように、地域の方に広く利用してもらって、施設自体がしっかりと機能すれば、利用促進に向かって地域全体で話を進めていけるのではないか。ただ小学生の利用を前提とした意見になってしまうと、特定の分野が良くなって、他の分野がおろそかになるのは違うのかなと思うので、どういう関わりをしていくのかという考え方については、市において検討してほしい。違う分野にまたがって関わることになるのであれば、市の中で関係する部署との間で連携をした方がいいと思う。連携というところでは、子育て支援課の中でも、子育て支援課の他の事業とよく連携をされた方がいいと思う。どの組織も対象とする範囲では、しっかり理解しているが、そこで全部の事業が完結してしまっていて、横の繋がりとか縦の繋がりっていうのを意識して、他の事業との連携について考えてほしい。もっと子どもの事業に関することであっても、マンションの建設なら土木にも関わってくるだろうし、コミュニティとなると地域コミュニティや自治会とかが関わってくると思う。児童館はこんなにばらつきのある利用者さんがいる中で、この委員会だけで取り上げるのはどうかなと思う。

（事務局）
子ども部門の連携について、ご指摘の点は否めないと感じており、改善していきたいと思っている。市役所の中でも、関連事業において、他の部門との連携が十分とれていないとも考えられるので、改善に努めてまいりたい。

（委員長）
来年度から、この委員会において、児童館についても議論をしていくかについては、今日決めないといけないのか。

（事務局）
今回説明をさせていただいて、意見をいただいて、次回決定できればと考えていたが、いろいろな意見があったので改めて考えたいと思う。来年必ずというわけではない。この委員会に関わってもらうのであれば、どういった位置付けで関わってもらうのかも整理した上で、委員構成についても再度検討するなど、市の方でさらに検討を深めていきたいと思う。

（委員）
放課後児童クラブに限らず、今、人が足りない職場はすごく増えてきている。今後、こども計画上、クラブが増えていく上で、やはり支援員や補助員の人員も増えていかないと、教室をつくりたくてもつくれないと思う。今年から公立の放課後児童クラブが民間委託になり、給料面も変わるとなると、去年までは、配置基準に対して、雇用人数が潤っていなかったが、今後、人員が増える見込みはあるのか。やはり民間でも人員不足で、ぎりぎりのところ子どもを支援しているところもあるが、高松市の人員確保策として、今後どういう取り組みをして、教室を増やしていくと考えているのか。

（事務局）
先ほど説明した配置状況を以降、多少の変化はあるが、支援員で言えば、3 人足りないという状況である。ただ、シダックスに委託したことによってまだ定員まではいってないものの、改善されたというところである。この度の委託の目的が人材確保にあるので、シダックスにも働き掛け、対応していきたいと思うが、現在委託している状況の中で、市として人材確保のために何ができるかは、状況を見ながら考えていきたいと思っている。施設を増やすといっても人がいないと、実際に増やせないので、しっかりと取り組みたい。

（委員）
　私は、今回初めてこの会に出席したが、資料を見て、私は高齢者で、6年生の孫がいるが、本当に大変な状況になっていると思った。もう少し地域の高齢者の方を利用して、高齢者の人に、毎日というのは多分無理だと思うが、曜日、時間を決めて、おじいちゃんおばあちゃんと遊ぶような形で、子どもたちが参加できる場所があったらいいとはと思うが、どうか。

（事務局）
　子ども教室の方で、地域の多くの年配の方に参画いただいていると思う。クラブの方は、やはり子どもを預かるという形なので研修を受けてもらったり、ある程度は自覚をもっていただく必要がある。いずれしてもご協力いただけるのはすごくありがたいことで、今後とも地域での参加をお願いできたらと思う。

（委員）
　私は花園町に住んでいるが、子どもの声があんまり聞こえなくなったと思う。郊外には、たくさん子どもが住んでいるが、花園校区は高齢化が進行している。放課後に、公園とか遊んではいるが、公園ではボール投げや野球も禁止とかすごく規制があると思う。伸び伸びと子どもが遊べるようにして欲しい。

（事務局）
　私たちが幼少の頃は、いろんな遊びができたが、周囲の人たちが受け取るかによって、いろいろな問題になっていて、自由に遊ぶことが難しくなっている。折り合いをつけながら、続けていければと思う。

（委員）
　私は放課後子ども教室のボランティアとして活動に携わっているが、その人材を見てみると、土・日曜日を中心に、自分の会社が休みのときに活動している人が多い。そうした現状からも、人件費も十分考えていただかなければ、長く続かないと思う。市も十分考えていただいて、指導員の関わりが増えるように配慮していただきたい。

（事務局）
　放課後子ども教室に対する支援については、先ほどもご意見をいただいたところであり、市から委託している以上、それなりの支援というのは必要だと考えており、財政状況もあるので、すべてのご希望に添えないかもしれないが、対応できることを検討してまいりたい。

（副委員長）
　放課後児童クラブの整備に当たっては、学校としても施設を有効活用して欲しいとは思うが、学校によって、校舎の配置や警備保障の関係があり、教室をお貸しできない学校もあったり、敷地全体の面積とかの問題があったり、ご不便をおかけしているかと思うが、今後とも連携をとりながら進めていきたい。

（委員長）
　他に言い残したことはないか。

（事務局）

本日はたくさんいろいろなご意見いただき、市としてやっていることが見えてこないとか、実態把握できてないとか毎年同じご意見をいただいているということなので、市としてもきちんと対応しなければいけないと思っている。特に子ども教室について、推進していくという市の方針があるにも関わらず、実態が把握できてないことは問題であると認識しており、やはり現場に出向いて、その実態を把握して、ニーズや、それを踏まえた分析をして本市の事業の充実に努め、また、委員の皆さんには、その状況についてご報告できればと思っている。

（委員長）

本委員会は、毎年、1 回の開催なので、こんなこと言ったなとおぼろげに覚えているが、会議に来たら、去年も同じようなこと言ったような気がして、どのようなことをその間行ったのかと聞くと、何かされた感じのことは言われるが、具体的にはそれがどう次に繋がっているのかが見えにくい。今回の委員の任期は来年の 8 月 14 日までになるので、来年もこの時期の会議であれば、このメンバーでないかもしれなくて、結局去年のことがよくわからないということになりかねないので、今回の会議でいろいろご意見いただいたことに関して、実態把握のためにこんなことやりますということと、でてきた課題に対してこんなことやりますというのを整理してもらい、制限もあると思うが最低限これはやりますということを、今の委員にメールでお送りいただいて、それに対して各委員の方々からまたご意見もあると思うので、検討してもらい、実効性のあることを具体的にやっていただければありがたいなと思う。その結果、また来年の委員会に繋がっていくと思うので事務局において対応してもらいたい。

その他、委員からの質疑・意見等はなく、以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以　上